

各環境の段階種類

思考、行動、または製品購買行動は、下記の生活環境を始めとする5つで決められている。

5つのそれぞれの項目は1つで規定されるのではなく、また、1つの定義ではなく、複数の位置付けがある。下記に、生活環境から正統性までの段階種類を挙げた。

1.生活環境

生活環境を設定する要因

- A.世帯人数
- B.親族以外との同居
- C.仕事の通い、居職(通勤時間の違い)
- D.住居形態環境
- E.住居立地環境

etc.

2.経済水準

経済水準は概念的に、単純にした。

- A.貧困 B.貧しい C.平均位置
- D.裕福 E.非常に裕福 F.自立意識
- G.個人の価値観からくる上記のA~D区分

etc.

3.労働環境

- A.肉体労働 B.知識労働 C.危険な環境
- D.物理的安全な環境 E.屋内、屋外区分

etc.

4.社会環境

- A.自然環境に影響される社会環境
- B.権力構造に影響される社会環境
- C.経済形態、進化による社会環境
- D.移動形態による社会環境

etc.

5.正統性

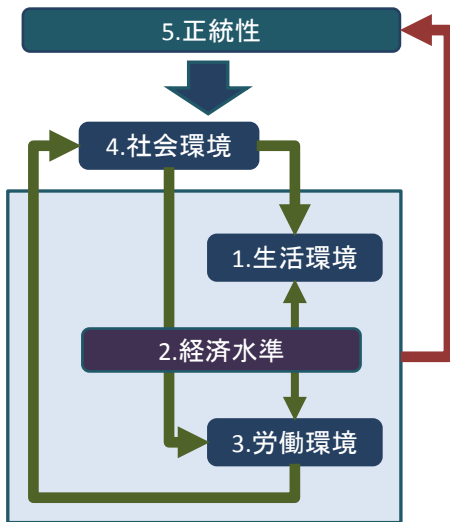
- A.習慣からくる正統性
- B.伝統・文化からくる正統性
- C.現在の規定、制度に関わる正統性
- D.年代による正統性
- E.知識範囲、習熟性による正統性
- F.観念的身分、立場からくる正統性
- F.従来の正統性を破壊しようとする正統性
破壊する正統性
技術変化に伴う正統性の変化

etc.

《考えるための例》

正統性の変化、正統性が変わるのではなく、正統性にもいくつもの種類が存在する。

- 1.仕事と個人生活は別であるとする正統性。
- 2.仕事と生活が同居しているはずとする正統性。
1、2共に仕事をしなければならないとする正統性が存在している。仕事と生活が別であるとしている。2つの正統性がある、これを超えた所に、1、2の区分がある。2の場合、仕事の時間、場所は生活と別にするが、仕事について考える時は、仕事も個人生活もないとする。職位が高くなればなるほど、四六時中、仕事について考えている。



1.~5.までの項目が、1つの定義でまとめてしまえない。